

まなび通信

- ◆ 最上教育事務所研修通信 第 1 号
- ◆ 令和 2 年 4 月 1 5 日
- ◆ 最上教育事務所指導課

「アクションプラン」の様式がリニューアル!

これまでの課題を踏まえ、今年度より新たな「アクションプラン」が完全実施となります。昨年度から新様式で作成・実践を行ってきた学校の取組み例を紹介します。

様式 3-2 アクションプラン		教育事務所または市町村名	学年	副校長 職・氏名	<職員会議や学年部会等、全職員によるアクションプラン共有の場>			
					① 起 止 時	② 目 的	③ 取 組 み	④ 次 年 度 4 月
「探究型学習を進める上で重視すること」……自分事となる課題設定、学び合いの目的の明確化、まとめ・振り返りの内容の充実、カリキュラム・マネジメント								
① 調査問題、児童生徒間の問題の分析と、児童生徒に付けたい資質・能力			② 「付けたい力、資質・能力」を付けるために必要な指導・取組み等			③ 「探究型学習を進める上で重視すること」を明確にした取組み・取組みを考案しよう。		
① 調査問題、児童生徒間の問題の分析等			② 児童生徒に付けたい力、資質・能力			③ 必要な指導・取組み等		

キーワードは「全職員」「全教科」



新「アクションプラン」の“よさ”は、次の3点です。

① 学校研究との関連が密に!

- ⇒ ○教科の壁を越え、各教科の独自性が発揮されます。
- 校内研究を核とした取組みに一本化されます。

Point 1

「アクションプラン」が別物になりません!

② 育成したい力が明確に!

- ⇒ ○付けたい力と目指す子どもの姿が明確になります。
- 目的を共有し、全職員で取り組みます。
- 「アクションプラン」が自分事になります。

Point 2

③ 全職員による活用が可能に!

- ⇒ ○子どもの姿での振り返りが共有されます。
- 全職員の共通理解の下での実践が可能になります。

Point 3

4月の調査が延期になりましたが、昨年度の問題等を活用し、新アクションプランを作成してみようかどうか。学校が再開された折の日常の授業改善へつながるはず。

※これから様式を配付しますので、ぜひ、各学校の実態に合わせて作成・活用ください。

☆裏面に先進校の実践例☆

☆アクションプラン作成過程の例【A小学校】☆

①調査問題の分析について	②育成を目指す資質・能力について	③必要な指導・取組み等について
<ul style="list-style-type: none"> ◇正答率の低い問題をピックアップ ◇問題を実際に解いて、出題のねらいや意図を確認 ◇学年部会やブロック部会で分析 ◇出題のねらいを解説資料や報告書等で確認 ◇質問紙で低い項目をピックアップ ◇全国比⊖だけでなく⊕についてもピックアップ ◇「知・技」「思・判」「表」「関・意・態」の4つで色分け（可視化）し課題を明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「教科で付きたい力」と「全教科で付きたい力」に分類して関連付け ◇校内研究のテーマや目指す児童の姿と関連する部分を明らかにし、自校での育成を目指す資質・能力を焦点化 ◇伸ばしたい点を「各教科共通する言葉」で表記 ◇複数の異なる資料による分析を参考にまとめ <ul style="list-style-type: none"> * 解説資料…意図、学習指導要領との関連など * 新聞記事…問題の分析など * インターネット…全体の傾向など ◇学校目標に関連した「目的や条件」「説得力」をキーワードで分析 ◇記載例では、3つの視点でまとめられていたが、自校の課題を受けて「思・判」と「表」に絞って考察 	<ul style="list-style-type: none"> ◇各学年の実態に合わせ、指導と取組の具体策を検討 ◇これまでの取組を価値づけ ◇キーワードに沿って取組を焦点化し各学年の実態に応じて活用できるように表記 ◇11月の評価後に、「授業づくりのポイントの具体化」をテーマにワークショップによる演習を行い、具体策を共有しブラッシュアップ ◇2つの柱を設定し関連するようにまとめを作成 ◇「思・判」と「表」を重点に
<p><活用後の感想></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校として育成を目指す資質・能力を全職員で共有しやすく、教科をまたいで考えられた。 自分事 ○全国学調とNRTの分析を、関連付けて考えることができた。 学校独自の工夫 ○「学校で育成する資質・能力」を全職員で共有でき、子どもたちへの伝え方や意識付けについて、歩調を合わせることができた。 全職員 ○評価は、全員のレポートをもとに、子どもの姿を通して共有できた。 「C」と「A」の充実 		

☆アクションプラン作成過程の例【B中学校】☆

①調査問題の分析について	②育成を目指す資質・能力について	③必要な指導・取組み等について
<ul style="list-style-type: none"> ◇調査問題、質問紙で課題のある項目をピックアップ ◇出題のねらいを解説資料と報告書等で確認 ◇学年部会、教科部会、分掌部会等で話し合って分析 	<ul style="list-style-type: none"> ◇国語・数学・英語で伸ばしたい力をそれぞれ分類 ◇挙げられた資質・能力を「各教科に共通する言葉」で3つに焦点化 ◇伸ばしたい点を「各教科に共通する言葉」で表記 ◇「学校で育成をする目指す資質・能力」として3つの力に焦点化 	<ul style="list-style-type: none"> ◇国語・数学・英語科以外の教員からも意見を収集し、全学年・教科で共通して取り組むことを決定 ◇これまでの取組を再度意識化 ◇目指す資質・能力を全学年で育むため、「教育活動全般」「全教科」で取り組むことを整理 ◇調査対象教科以外での取組みについても、全学年で共通して指導することを明確化
<p><活用後の感想></p> <ul style="list-style-type: none"> ○作成したアクションプランを全職員に配布し、必要に応じて確認できるようにした。「学校で育成を目指す資質・能力」を全職員で共有でき、教科の壁を越えた授業改善が進んだ。 日常の授業改善 ○日常の授業に変化が見られた。どの教科も教師が主体となって知識を伝達する時間が少なくなり、生徒同士がお互いの考えを聞き合う時間が設定され、三角ロジックを意識した話し方をする生徒が増えた。 ○全学年・全教科で共有して取り組むことが、全職員で共有された。 全職員・自分事 ～配布＋職員室に掲示していつでも確認～ ○今回作成したものをベースに、4月の第1回校内研修で全教職員で意思統一できた。 PDCA サイクル ○校内研究は学力向上が目標であり、全国学調も学力向上が目標でもあるので、2つの関連をより明確にすることができた。 日常の授業改善 		

※新「アクションプラン」の作成に関する研修・演習等の要望があればご連絡ください！